

送付し、そのうち108のところから回答を得た。そこから見える特徴として、次のような点が指摘できると思われる。まずオープンした年は、90年代以降が全体の88%を占め、この取り組みが90年に入り、急速に広がっていること。設置されている場所も従来の社会教育・文化スポーツ施設と福祉関係施設で半分余りを占めるが、それ以外にも病院や貸し店舗などにも設置され、また運営主体も当事者や親の会などの障害者関係団体と法人、作業所等に加え、市民有志や団体など多様な形態をとまってきていること。これに対応して従来知的障害が中心であったものが、精神障害関係にも広がってきており、精神障害をもつ人の居場所や就労の場所としての役割が増大していること。一方、そこで働いている障害をもつ人の属性としては、男女比が3:5と予想していたよりも男性の数が比較的多いこと、年齢構成について20~39歳までが65%と最も多いが、40歳以上も27%と年齢の幅も広いこと。同時に障害種別と障害程度についても中度さらには重度の人も少なくなく、知的障害に加え精神障害および肢体不自由や聴覚障害など、様々な障害をもつ人が働いていること、などである。また喫茶コーナーでの主たる仕事内容については、接客と調理、掃除、会計、在庫の管理、直接運営に関わる仕事などと幅が広く、ここに喫茶コーナーの単純作業が中心の作業所などにはない特徴を見出すことができる。そしてそこから、喫茶コーナーの持つ機能として教育的機能も含め多様な役割を内包していることが見えてくるのであり、それは喫茶コーナーの役割と目的についての回答の中に具体的に表現されている。すなわち、運営にあたって最も重視していることでは、市民との交流をめざす福祉教育的な機能、障害をもつ人の自立と社会参加を実現すること、障害をもつ人のたまり場や居場所(自由な時間を過ごす場)としての機能、障害をもつ人の就労や仕事の可能性を広げること、などの項目が満遍なくあげられているし、また喫茶コーナーの果たす機能についても、障害をもつ人に就労の場を提供しているだけでなく、障害をもつ人と地域の人々との交流の場となっている、障害をもつ人自身の学習の場になっている、障害をもつ人がサービスを受ける側から与える側になる機会を与えている、障害をもつ人のたまり場や居場所としての機能を果たしている、障害をもつ人が公共施設などで催される行事や事業等に参加するきっかけを与えている、などが指摘されているのである。このように社会教育の視点からも喫茶コーナーは注目されるわけであるが、あわせて多くの課題も出されている。その中でも運営に関わっての財政的な問題と障害の特性や程度に対応した働き方のスタッフの確保などについては共通に出されている課題である。

ノーマライゼーションの視点から見た障害をもつ人が働く喫茶コーナーの可能性

The Possibility of the Tearoom Corner Where the People with disabilities work, from the viewpoint of Normalization

小林 繁

KOBAYASHI Shigeru

本年度は、昨年度の研究をふまえ、①アンケートの分析と②喫茶コーナーおよび障害者福祉関係の取り組みの見学調査③全国喫茶コーナー交流会への参加を行った。

①について

アンケート調査は全国の喫茶コーナー450箇所余りへ

②について

上述のような問題や課題を打開する方向を探っていくため、同時に先進的な取り組みを行っているところや新たな試みとして注目される喫茶コーナーを見学し、関係者から聞き取りを行った。特に滋賀県伊吹町伊吹山寺にオープンした「茶房鬼佛庵」は、お寺での喫茶コーナーという点ではじめての試みであり、癒しの場そして障害をもつ人の活動を広げ、お寺を訪れた人たちとの新たな出会いの場として、福祉や地域づくりという面から今後の活動の展開が期待されるところである。

また福祉先進国のひとつであるデンマークを訪れ、障害者福祉の取り組みとあわせて喫茶コーナーと同じような活動を行っている所の調査見学した。その中でもオーデンセにある障害をもつ人が働くカフェおよびアクティビティセンターは、市直営の建物で、1階のカフェでは障害をもつ人たちがカウンターでお茶を飲んだり、ビリヤードやダーツなどをしてゆったりとした時間を楽しんでいた。ここでは障害をもつ人が交代で働いており、カフェのほかにもバーもあり、仕事を終えた後の交流とくつろぎの場となっている。また2階には絵を描くスペースや織物、バンドなどができる場所も用意されており、しかも専門の指導員が付いてそれぞれ技術的な指導やサポートを行っている。こうした芸術文化活動も当然の権利として保障されているという点に、デンマークの福祉の特徴がよくあらわれているように思われる。

③について

本年度の全国喫茶コーナー交流会は2005年3月に東京都世田谷区で行われた。200人以上の人は参加したが、そのうち60人余りが障害をもつ人であった。また4つの分科会が設けられ、その中で上述の全国調査の概要を報告したが、そこでは様々な質問や意見が出されたため、それを参考に今後さらに詳細なアンケート分析を行う予定である。